



春画を見る

大英博物館④

大英博物館入り口の横に浮世絵が描かれた大きな看板が立っていた。娘に何だろうと聞くと「多分、浮世絵の特別展が開催されているのよ」という。

浮世絵は十九世紀後半のヨーロッパの美術に影響を与え、北斎などの名作がヨーロッパなど海外に流出したという話を聞いたことがある。ほかのお目当てのものを見終えたところで「浮世絵を見

本の表紙は作品の一部、

全体は本の中にあつた



でどうぞ」と言つた意味がやつとわかる。

外国の人たちは女性を含めて近くで食い入るように見ている。私はその後ろから足早に見て回る。何せ春画ばかりなので、日本人がこんなことだけに關心を持つているように思われ、恥ずかしい気持ちになる。関心がないと言えばうそになるが、

この種のもは一人でこつそり見るものという意識があり、あとから思うきだつたと思うほど早く出た。娘たちのところに戻ると「ポルノどうだった？」と。娘は春画展といたらしい。帰りに看板を見ると、英語で「SH

UNga」と書いてある。春画という言葉が英語になつて驚く。娘は平然と「巡礼記にこれで一話書けるね」と言う。そしてインターネットで見つけたからと、大英博物館展示作多数収録という掲載写真の「江戸の春画を知りたい」(GAKKEN MOOK)という本が送られて来た。一人でこつそり、ゆつくり見る。男女の性器がどれも大きく描かれてい

話が前後するが、ロンドンから東京に帰り、五日間、東京を楽しんだ。その時、江戸東京博物館で「大浮世絵展」が開かれていた。こちらは普通の浮世絵。春画だけを見たと言われては男の沽券(こけん)にかかわるのうまでもない。それにしても、江戸時代はどうして性に関してかくもオープンだったのだろうか。春画は笑い絵とか枕絵とも言われ、専門家の間ではユーモアの芸術として評価は高い。この春画事件のお陰で江戸の文化に關心を持つようになった。東京で見た「大浮世絵展」は現在、山口市の県立美術館で開かれている。春画展ではないのでお間違えのないように。